

特別寄稿

中国における文言文の読解指導

陳 隆 升

1. 中国文言文の学習目標

(1) 文言文とは何か

「文言」というのは、先秦時代の中国語に基づいて形成された古代中国語の書き言葉である。長い時期の発展を経た文言は、豊富な語彙、洗練された用語が特徴である。

文言と現代中国語の差異は、主に語彙と文法にある。文言には相当複雑で厳格な語彙系統、文法系統がある。文言文というものは、文言で書かれた文章であり、先秦時代の作品や後世の文人が先秦の書き言葉を真似し書いた作品を含めている（王榮生・宋冬生主編，2011，p. 201）。

(2) 文言文の課程および学習目標

文言文の学習は主に中学校以上の段階に設けられ、小学校では少量で非常に易しい文言文しか勉強しない。では、中等教育における文言文の学習はどのようなことを目指しているのだろうか。中学校と高校の「語文課程標準」を見て比較しよう。

中学校文言文課程目標（2011年版）

- ①古代詩詞を朗誦し、易しい文言文を読む。注釈や参考書を用いて基本的な内容を理解する。知識を覚えること、感じることを重視し、自分の鑑賞力を向上する。
- ②文学作品を鑑賞し、作品の感情を体験し、作品の中身を初歩的に読み取り、自然、社会、人生に対する知見を得る。作品における感動的な場面や形象について、自分の考えを述べる。作品における表現力が高い言葉を味わう。

高校文言文課程目標（2003年版）

- ①中国古代の優秀な作品を勉強し、作品に含まれている中華民族の精神を感受し、伝統文化に関して一定の造詣があるように基礎を作る。歴史発展の視点から古代作品の内容価値を理解し、その中から民族の知恵を吸収することを学習する。現代の観念から古代の作品を見て、その積極的な意義と歴史的な限界を評価する。
- ②易しい文言文を読む。注釈と参考書を用いて言葉や文の意味を知り、文章の内容を理解する。文言文の中でよく使われる文言の実詞（実質の意味を持っている単語）、虚詞（実質の意味を持たず、専ら文の構成を助ける単語）、文言の文型の意味と使い方を整理し、読むとき一つのことから他の多くのことを類推することを重視する。古代の詩詞と文言文を朗誦し、一定の量の名作を暗記する。

中学校と高校の文言文課程目標を比較してみればわかるように、いくつかの共通点がある。

- (1) 文言文に言及するときは「易しい」という言葉が使われ、つまり中等教育段階で学習する文言文は比較的易しくて分かりやすいものである。
- (2) 生徒の「注釈と参考書を用いて」文言文を理解する能力を育てる。
- (3) 文言文における特別な文字、単語、文の「蓄積」が重視される。
- (4) 文言の朗誦が重視される。(朗読と暗誦が含まれる。)
- (5) 作品に潜んでいる中華民族精神を感受し、伝統文化についての基礎的な認識を身に付けさせる。
- (6) 文言文作品を鑑賞する能力を育てる。

2. 文言文の学習内容

(1) 語文教科書における文言文の篇目と内容

ここでは中国における中学校の「部编版」語文教科書を用い説明する。この教科書は6冊があり、読む教材が168篇である。その中、文言文は36編で、21.4%を占めている。

1. 時代の特徴

先秦時代の文章が一番多い。これは文言文の特徴を表している。文言文は主に先秦時代の言葉で書かれたため、その言語は文体を勉強するには、先秦時代の文章をたくさん学ばなければならない。次に多かったのは唐、宋時代の文章である。唐、宋時代は中国文章発展の一つのピークである。この時期において「唐宋八大家」は代表的な作家であり、文言文で世界的に有名になった人である。彼らの文章はほとんど先秦時代の言葉（文言）で書かれたが、一定の変化もあり、文章の新しい模範となった。したがってその文体も学ぶべきである。

2. 文種の特徴

先秦諸子の文章は散文が多く、孔子（『論語』）、孟子（『孟子』）、莊子（『莊子』）、列子などが大きな割合を占めている。そして、先秦時代の歴史的な散文も少なくなく、たとえば「春秋左氏伝」、「戦国策」、「礼記」などがある。そのほかにも、寓言（たとえ話）、書、表、記、序などの文種がある。

3. 題材の特徴

文言文テキストの題材は主に四種類がある。

- ① 中国古代思想家の優れた思想。たとえば儒教思想、道教思想など。
- ② 中国古代の歴史書に表されている歴史観や優れた経験。
- ③ 歴代の作家が描写した古代の山川や社会生活。
- ④ 歴代の志士仁人が文章で表現した大志、心情および人生経験。

(2) 文言文学習の内容

文言文は、「文言」、「文学」、「文章」と「文化」という四つの要素で構成されている。具体的な

篇目における学習の重点が違うが、文言文を学習するときこの四つの方面を考慮しなければならない。

1. 文言

「文言」を用いることは文言文の特徴である。前文で述べたように、文言には相当複雑で厳しい語彙、文法系統があり、生徒はテキストを読むとき、まず言語レベルの問題に当たる。それを解決するよう、「文言」について学習する。

2. 文章

文章について言うと、文言文は歴史的な選別を経て、純粋で美しい作品がたくさん残った。これらの作品は組み立てが厳密で、言葉が簡潔で、中身が豊富で、意味深長である。そのため、何回も繰り返して味わい、読むことを通じて伝統的な文化や文章の書き方についての知見を得る。

文章の目的から見れば、当時実際の効用を持っていた文言文は少ない。手紙、詩文の序、古代特有の議奏類の文章などがある。文章の内容から見れば、古人が求めていたのは「文章、経国之大業（文章を書くことは、国を治めることと関わる一大事なことである）」ということで、「文以載道（文章は道理を述べるためのものである）」を強調していた。

3. 文学

文言文の中には多くの優れた文学作品があり、文言文を読むことを通じて、生徒は自分の感情世界を豊富にし、審美感を育て、文学素養を向上させることができる。

実際に文言文を読むおよび学習する、文章と文学という両面を分けることができない。分けるべきでもない。この両者はよく結合され文言文に統一されている。読むとき、テキストにおける言葉遣いが一番素晴らしいところに、焦点を当てるべきである。文言文の「文道統一（文章は思想と言語表現の統一体）」という特徴によって、言葉遣いが一番素晴らしい、芸術性が高いところは、作者の思想を集中的に表しているところである。

4. 文化

「文化」は文言文の四つの要素のうち、一番顕著で重要な要素である。

- ①文言そのものは文化である。文言書きことばも文化であり、漢字も文化である。
- ②文言文に含まれている伝統的な思考方式。
- ③文言文と関わる法令制度、天文地理、民俗習慣など具体的な文化内容。これははっきり見て取れる文化であるが、中等教育段階の生徒にとっては主な学習内容ではない。
- ④文言文で表している中国古代志士仁人の情意と思想。これは中国の伝統文化の直接的な表現であり、生徒の文言文学習における主要な内容である。

現在、中国において、大規模な試験（高校入試、大学入試）における文言文の問題設計に欠点があり、「文言」つまり「文字、語彙、文」レベルのものが問われることが多いため、語文教師が実際に文言文を教える際も、「文言」の学習に重点を置いている。そのため、「文言」が「文章」、「文学」、「文化」と分離され、文言文の一番重要なところが軽視されている。これは本末転倒のことだと私は思っている。四者を統一に扱うことが正確なやり方だと思い、「一体四

面、相互に補い合う」ことを目指すべきである。「文言」から文章に入り、そして「文章」と「文学」を理解して鑑賞し、最終的に文章に含まれている「文化」を理解し消化する。

3. 文言文の指導方法

(1) 文言文指導方法の推移

古代において、文言文の学習は読経（四書五経）教育に含まれていた。したがって、古代の教師は四書五経の文章を一字一文づつ解説して教えた。このような指導法は「串講法」と呼ばれる。時代が変化し、現在の生徒は勉強しなければならない教科内容が多くなり、こうした指導法は効率が低く、効果もよくない。現在では、「自ら読む＋ディスカッション＋解説」という指導法が多く使われている。

(2) 句読点（文章に切れ目を入れる）指導：文言の特徴に合う指導法

ここでは中国における一つ伝統的な文言文指導法を紹介する。それは句読点指導である。

古代の文言文は句読がなかった。初心者は句読の訓練を経て、句読がなかった文章に切り目を入れ、文章のリズム、中断するところ、モダリティーを明らかにする。そして文章の内容を理解する。このような訓練が繰り返されるうちに、初心者も言語感覚をつかみ、最終的に句読なしで文章が読める。

現在でも、文言文を指導するとき、句読点を消してそして生徒に付けさせる教師が多くいる。高校入試と大学入試の試験においても、句読点がない文言文を一段落提示し、生徒に句読点を付けさせ、現代の中国語に訳させる問題がある。

(3) 「字句を練る」指導法：理想的な文言文指導法

古人が文章を書くとき、語や文を練ることを重視していた。先ほど述べたように、文言文の「文道統一（文章は思想と言語表現の統一体）」の特徴によって、文章の一番素晴らしくて文学性が高いところは、集中的に作者の思想を表現している。

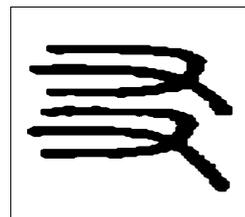
生徒は作者が言葉を練ったところを読むことを通じて、作者の思想を理解することに、文言文の指導重点をおくべきである。中国では現在、このような指導法を開発しようとしている学者や語文科教師がいる。すでに一定の成果があり、影響力も大きくなっている。

ここでは一つの例を挙げて説明する。

筆者はかつて高校の語文教師として18年間務めた。その後博士後期課程に進学し大学で語文教育について研究するようになった。これから紹介するのは筆者が高校の教師だった時に行った授業である。

授業で扱う教材は『論語』の「周而不比」で、流れとして、

- (1) 黒板に小篆の「友」を書き、生徒にこれは何の文字か当てさせる。
- (2) 当てられたら、友の元の意味（親善）を体得させる。
- (3) テキストの中における、「友」という文字が出現する頻度を統計させる。



- (4) 「友」の三つの意味（友達，○○を友達として扱う，友達との付き合いのあり方）に基づいてこれらの文を分類する。
- (5) 孔子が答えた「友達との付き合いのあり方」に含まれている儒教思想（文化）。

授業前、筆者はこのテキストを深く研究してみたところ、「友」が核心的な単語だと気付いた。言い換えれば、このテキストは「友」をめぐる内容を展開している。そのため、以上の五つのステップを設計し授業をした。まずは「友」の小篆を書いて生徒に当てさせた。当てられたら、この文字は二つの手が重なっているように見えると説明した。生徒に隣の人の手に自分の手を重ねさせ、他人の体温を感じさせ、友の本来の意味、つまり善意、温かさを体得させた。そして、友の数を統計させ、文章における友の意味を整理させ、文を分類させた。分類が終わったら、友の「友達との付き合いのあり方」という意味に含まれている儒教思想、およびこのような思想の現在の価値について考えさせた。生徒の理解を促すため、学者の解釈を提示し、最終的に生徒に文ごとの感想を書かせた。十人の生徒にテキストの文の順序にしたがって別々で自分の感想を書き、一つの感想文を組み立てる。これはクラス学習の集団的な成果である。そして、生徒に自分が書いたそれぞれの文の感想を修正し一つに文章にすることを課外宿題として伝えた。

まとめていうと、本稿は中国の文言文教育における三つの方面、つまり文言文の学習目標、文言文の学習内容、文言文の指導法について述べた。

引用・参考文献

- 陳隆升（2014）「文言文無標点教学的現代闡釈」『語文學習』第9期
- 王榮生・宋冬生主編（2011）『語文學科知識与教學能力』高等教育出版社

翻訳：鄭一葦